

議 事 録

- 1 会議名 平成27年度第4回さぬき市男女共同参画推進協議会
- 2 日 時 平成28年2月29日（月）13：30～15：30
- 3 場 所 さぬき市役所302会議室
- 4 出席者 浅川委員 上原委員 柿木委員 亀井委員
 小山委員 多田委員 筒井委員 南田委員 宮本委員
 （事務局）白井課長 津村係長
- 5 傍聴者 0人
- 6 会議次第 1 開会
 2 会長あいさつ
 3 議事
 (1) 女性が輝く地域づくり講演会（東讃会場）報告について
 (2) 第2次男女共同参画プラン進捗状況調査結果について
 4 その他
 5 閉会
- 7 配布資料 資料1：平成27年度女性が輝く地域づくり講演会（東讃会場）をふりかえって
 資料2：第2次さぬき市男女共同参画プラン前期計画
 推進施策の実施状況及び基本方針に係る数値目標進行状況調査報告書
 （平成26年度）
 資料3：平成27年度 若者に向けたデートDV防止啓発講演会 実施報告
 資料4：新聞記事（2部）

8 議事の経過及び発言要旨

発言者	意見概要
事務局	<開会 13：30> ただ今から平成27年度第4回男女共同参画推進協議会を開催します。 会長からご挨拶いただいたあと、引き続き議事進行をお願いいたします。
会長	<挨拶> それでは 議題1の女性が輝く地域づくり講演会について事務局は報告をお願いします。また、講演会後の市長との意見交換会のその後についても教えてください。
事務局	<資料及び平成28年さぬき市議会第1回定例会施政方針内容を報告>
委員	新室は、なんという名称になるのですか。
事務局	秘書広報課男女共同参画・国際交流推進室です。秘書広報課の課内室となります。

委員	国際交流という新たな要素が入るのも大変ですね。
事務局	単独で室を作るのは人員配置が難しいので、秘書広報課にもともとあった国際交流と男女共同参画をセットにしたものと受けとめています。
委員	いろいろな立場で作っていくということが大事だと思います。海外の男女共同参画の状況がどうであるかということも参考にしながら推進していければいいと思います。
会長	それでは 議題 2 の第 2 次男女共同参画プラン進捗状況調査結果について事務局から説明をお願いします。
事務局	<説明>
会長	頑張っている部分ともう少し頑張ろうという部分がきれいに分かれている気がしますが、皆さんの意見ををお願いします。
委員	これだけの統計をまとめるのは大変だったと思います。説明を聞きながらわかったのは、各部署において男女共同参画というものが少しずつ広がってきているということ。12 ページの 5 名の女性職員を管理職に登用についてですが、どういった部署で登用しているのですか。
事務局	26 年度は市民課、会計課、監査委員事務局、議会事務局議事課、国保・健康課です。
委員	職名はなんですか。
事務局	課長が 3 名と事務局長が 1 名、主幹が 1 名です。
委員	男女共同参画推進市民サポーターの育成とありますが、その人数と所属団体が極めて限られていると思う。団体に所属しようがしまいが、また、所属団体の枠を広げていかないとサポーターの活動は限定的になってしまうが、広げていく考えがあるのかお尋ねしたい。
事務局	広げていきたいと考えています。募集広報もしているのですが、この分野は興味を持ってもらうことから取り組んでいかないといけないので、範囲を狭くして、細かく活動しながら募集するべきだと思っています。来年度からは、市民サポーターの意見も聞きながら拡充活動を進めていければ、と思っています。
委員	さぬき市の女性団体の中で、男女共同参画の推進を活動目標にしている団体はかなりあると思います。強制的にサポーターにするのはこの活動の意味が薄まるかもしれないが、市の男女共同参画を推進していく上では、ある程度団体に所属した人が、半ば強制的であっても（サポーターとして）集まってくることによって推進啓発がもっともっと可能になるのではないかと思います。その点を 28 年度、29 年度に向けて推し進めていただきたい。私たちもそれに協力していきたい。例えば、さぬき市が募集している男女共同参画市民企画事業に応募された団体もしくはグループから、単年度でもいいのでサポーターに加入してもらえそうな（応募）条件を付けることは難し

事務局	<p>いですか。</p> <p>応募条件に加えるというのは難しい気がします。女性団体からの登録についてですが、市内にある女性団体同士を横につなぐという役割を女性団体連絡会が担っているのので、個別に相談というよりも女性団体連絡会と相談するようになると思いますが、どの団体もとても忙しく活動しているので、サポーターといえど、役が一つ増えるということに前向きな反応があるかという点も難しいかも知れません。ただ、啓発活動に広がりを持たせるということは大事なことでと思っているので、担当の生涯学習課と4月からできる推進室とが連携を強めることを考えていければと思います。今年で言えば、今まで男女共同参画講演会は、組織動員はしないということで進めてきましたが、今回の講演会では女性団体連絡会所属の団体に直接声をかけたら、「男女共同参画なら行かないといけないね」と、多くの方が声をかけあってくれたので、押しつけがましくない、上手な連携を模索していくということは大事であると思います。</p>
会長	<p>人数が増えると幅も広がるかもしれませんが、動きやすさが大事だと思います。</p>
事務局	<p>拠点となる場所がないので難しいかもしれませんが、4月にできる推進室は、今までと違って専従になりますので、今までよりもっと細かく、皆さんといろんな取組ができるのではないかと考えています。今までよりは、広がりがあって当然になると思います。</p>
会長	<p>今までは、いろんな団体がそれぞれの思いで個別に政策課に行っていたし、政策課は、男女共同参画だけで動ける課ではなかったですね。推進室ができると、各団体の活動にもう一步介入して連携につなげることもできると思うし、もっと頻繁に動けるのではないかと期待感もあります。</p>
委員	<p>人員配置はまだ詳しくわからないと思いますが、秘書広報課長の下に室長がいらっしゃるのでしょうか。</p>
事務局	<p>まだわかりません。室を作るので、通常は管理職が一人配置されるはずですが、現在ある課内室でも債権管理室のように税務課長が兼務しているパターンもあるので、兼務になる可能性もなくはないと思います。</p>
委員	<p>考えて下さっているとは思いますが、室長や担当がいらっしゃるのと今までとは違う動きができるのではないかと期待しているので、よろしくお願いします。</p>
委員	<p>男女共同参画・国際交流推進室がどうして秘書広報課なのか、わかれば説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p>おそらく、国際交流を秘書広報課が担当していたのと、政策課が担当する前に秘書広報課が男女共同参画を担当していた経緯があったからだと思います。課内室として置くには政策課にはすでに予算調整室、総務課には危機管理室があるので、課内室がない秘書広報課につくることになった可能性もあると思います。室長は課長級でありますし、課内室だと、なにかあっても、課と連携しやすいと思います。</p>
会長	<p>他にご意見はありませんか。</p>

委員	<p>この前の講演会は好評でよかったと思います。アンケートを読んで、市民の期待が高まっていると感じました。新しい室ができるということで、どんな活動をしているか、より一層推進していくためには何をすべきなのかについて、市民に開かれた窓口になってほしい。(新室には、) さぬき市における今後の活動をいかにするか考えてほしいのだが、アンケート結果を踏まえれば、働き盛りで子育て中の方の意見やさぬき市を継ぐ若い人の声を反映してほしいし、それを支える高齢者の意識作りも進めていく、そういう方向性を鮮明に出して行けるような活動をしてほしいし、していきたいと思いました。</p>
会長	<p>他に感想などありませんか。</p>
委員	<p>講演会についてですが、武川さんの講演、姉様キングスの音曲漫オステージ、パネルディスカッションの3つとも内容がよく、雪の中、聞きに来てよかったという意見が多かったです。講演会はやってよかったで終わってしまうことが多いので、もう一つステップアップできるように働きかけができないかなと思います。今回の講演会が良かった分、次になにかつなげて行けないかな、と思います。単発的ではもったいないので、この協議会からでも何か発信できればいいな、と。さぬき市は男女共同参画について前向きであるということを知りたいていし、市民や団体に知らせていきたいし、婦人会も反応が良かったので何か伝えられればと思いました。</p>
委員	<p>観音寺市と県が共催した女性が輝く地域づくり講演会・西讃会場に行ってきました。そこでは、谷口真由美さんによる、「おばちゃん目線で見ると社会の問題 ～みんなの幸せに暮らすには～」という講演とパネルディスカッションでした。パネラーは若い世代である観音寺第一・観音寺中央・三豊工業の3つの高校から男女1人ずつ、コーディネーターは、観音寺第一の岡田先生でした。高校生はこんな男女共同参画の認識なんだという非常に興味深いものでした。小学生のころはどんな色のランドセルを持っていたかという話では、大概、赤か黒でしたが、でも、調査してみると水色、緑、こげ茶、紫もあった。「そのランドセル誰が選んだの？」と聞くと、私が・僕が・おばあちゃんが・お父さんが・お母さんが、と、いろいろな人が選んでいた。谷口さんは、「レジュメなんか作っても意味ないよ。すぐ忘れるよ。」と。でも高校生はレジュメを作っており、「レジュメを作ってきてしまっ隠そうか。」というところから始まり、ほんとにざっくばらんな雰囲気でした。彼らがきちっとしたデータで訴えていたのはLGBT。Lはレズビアン、Gはゲイ、Bはバイセクシュアル、Tはトランスジェンダー。性同一性障害であったり、同性愛者であったり、両性愛者の人たちに対して自分たちは開かれた自分でありたいとしていました。一方ではランドセルの色の古い話題、一方ではLGBTを話題にしながらそれに積極的にかかわっていきこうという話題。どれも興味深く、聞き続けることができました。会場は200人も入らないような図書館の多目的室でした。参加者の年代は私たちの前後で、若い人たちはあまりいませんでした。男性もちらほらで、大きな課題に思えました。私もあるところで講座をしたのですが、昼間なので年代は60代から70代と限られていましたが、約半数は男性で、非常に積極的に議論がなされました。1月に開催したさぬき市の講演会もとてもよかったのですが、他のところの講演会も参考にしながら、先ほどの委員がおっしゃったように、単発ではなく、参加者は少なくともいいから、ランドセルのような古いテーマも絡めながら、繰り返し講座などを開催して、男女共同参画は難しいものではない、ということを知りたいていし、市民が考えられる機会を増やしていければいいと感じました。</p>
会長	<p>3月10日の講演会は自由参加でしたか。</p>

事務局	申し込みは必要であったと思います。
委員	どこの主催ですか。
事務局	香川県です。興味のある方にはチラシもお渡しできますので連絡ください。
会長	少し古いですが、杉尾さんの講演会を開催したときに、男女共同参画に参加しなさそうな方がたくさんいらっしゃっていたのが印象的でした。あとで、こんな話もあるんだ、と感想を言っていただいたことはよかったと思いました。
事務局	入札の総合評価方式の加点対象としたからのようですが、少なからず効果があったと思っています。
会長	講演会に参加していた男性から、生の話が聞けてよかったという意見をいただきました。男性は、何かの理由がないと講演会には行きづらいようなので、機会があれば再度お願いしたいと思います。
事務局	男性もだが、働き盛りの方も、もっと若い人も、市主催の講演会にはなかなか来てくれないのが現状だと思います。どのようにして若い人たちの参加を増やし、意見を聞くのか、市として考えていかなければならないと思っています。年配の方たちは、若い人たちの意見を聞きたいとおっしゃるが、若い人たちは言っても変わらないと思っていて、だんだんと意見を出さなくなる、という見方もできるような気がします。制度や社会の仕組みを作っているのは60代以降の先輩方で、しかも男性が中心というのが今の日本社会であり、このような現実も踏まえながら、男女共同参画の視点から、若い人やこれから子どもたちが暮らしやすい、自分の個性を生かした生き方ができることにつながるような市の取組ができれば、と思っています。だから個人的には、講演会などに年配の方が参加していただくことには大きな意味があると思っています。さきほど、委員がおっしゃっていたように投網的な活動だけではなく、様々な会場で小さく行う、訪れやすい活動もしていかないと、働く世代に興味を持っていただけないのでは、とも思っているのですが、来年度に向かってしっかり引き継ぎたいと思います。
委員	講演会を催し、広くいろいろな人にきていただいて男女共同参画って大切だね、と思っただけでも大事だが、さぬき市であれば20人くらいの小さな講演会や、農業や漁業従事者限定のものとか、自分自身の権利や義務も考えられる、市民のレベルアップもはかっていけるような、中身の濃い話を積み重ねていくことが大事だと思いますし、推進室ができたことで、そのようなことを進めていくきっかけになればいいと思っています。
委員	市民サポーターや委員も、事情があり全員が参加できなかったと思いますが、さぬき市の職員の方は講演会にどれくらい参加されていたのですか。
事務局	市の職員といえども、皆さんと同じ市民であり、普通の労働者であり、家庭もあります。今回の講演会でいえば、25～26人の参加であったと思います。多いか少ないかと言えば、職員数から言えば少ないとは思いますが。

会長	<p>どんな講演会であったら見に行きたいと思うのでしょうか。職員の方から、こんな感じだったら休みの日に参加してもいいとか、家族全員で参加できる、というようなことが聞ければ面白いと思います。</p>
委員	<p>市民がさぬき市をよくしようと思うよりも先に、市役所の方がもう少し講演会に参加してほしいし、リーダーシップを発揮してほしいと市民としては思います。</p>
会長	<p>リーダーシップというよりも、若い人が、時間を割いても行ってみたいと思う魅力的な講演会がどんなものか掴めればいい。親子で参加できるようなものなど。</p>
委員	<p>広くアンケートを取るのは大変だが、市役所の方に聞くのは簡単な、と。</p>
委員	<p>子育てしているお母さん方にはたくさん要求や問題がある。それらをどうにか集めて政策に反映してほしい。それがなんとなく欠けていると思います。推進室がそれを活かす役割を少しでも担ってほしいと思います。今まで政策の一環で行っていたことを、実践につなげていくいいチャンスだと思います。</p>
委員	<p>高齢者社会の中でも分断がある。貧困社会もあり、特に子どもの貧困生活は見えにくい根が深い。ご飯を食べずに登校する子もおり、学校が対応している。そういった中で男女共同参画を考えるならもっと細かく砕いて考えていかなければいけないと思います。資料 29 ページの「高齢者が安心して暮らせる条件」とは何かと考えると、自然にお互い支え合わなければ生きていけない社会が高齢者社会であると思います。だから、高齢者が安心して暮らせる条件とは何か考えてしまいます。</p>
会長	<p>松山では小学校 4 年生に認知症についてという授業をしているそう。認知症を高齢者のものと思わず、社会で考える問題であるということ子どもたちに知ってもらい活動が始まっています。核家族も増えたので、以前ならば自然に家庭で学べたことが、外で学ばなければわからなくなっているそう。また、貧困の子どもを守るために、保健室にカップラーメンを常備して、子どもの命を守っている学校もあるそうです。都会と違いさぬき市ではそこまでの状況ではないかもしれないが、人口が多い都会ではそのような事が起こっているそう。市内でもこんな問題がある、あんな問題があるなどを共有できれば、私たちもいろいろな手伝いや対応ができるのでは、と思います。</p>
事務局	<p>地域見守り隊の登録数からみても、市民のみなさんが頑張ってくださっていると思います。実際、朝ごはんについてはあまり食べていない、という実態も市民活動の報告の中から見えたりもしています。子育ても介護も教育も、細かく細かくフォローしていかなければいけない事案がたくさん出てきているにもかかわらず、それを担う地方公共団体の正規職員は圧倒的に減らされています。社会的に非正規職員が増えてきている中で、若い人たちや、現在、年金で暮らしている高齢者からも、今後が不安だという声もよく聞きます。個人的には、国民が安心して高齢者になり、死を迎えられない現状を作り上げてきた政治の貧困が原因だと思います。ここが変わらないかぎり、市民レベルでできる細かな手当には限界があると思います。自分の生活もある中でボランティアばかりはできません。市も推進室をつくるからといって、多くの正規職員を配置するかといえばできない状態だと思いますので、皆さん方の期待に応えられるだけの成果が即でるかといえば、難しいと思います。もちろん頑張りますが、一緒に取り組んでくださいますようよろしくお願いします。</p>

委員	あれができない、これができない、ああしてほしい、こうしてほしいという声が増えている。私は高齢者を60代は前期、70代は中期、80代を後期と分けている。私自身後期になって思うことは、わずかでいいから自分に何ができるだろうということである。自分の家の中、まわりの中、社会の中で。推進室ができたということは一つ前進であると思う。これからどうしていくかについては我々委員が具体的に身近な所から考えていかなければと思います。
会長	その他、事務局からなにかありますか。
事務局	<事務連絡>
委員	一つお願いがあるのですが、講演会の話聞くだけでなく、中学生自身がなにを思ったのか話し合う場を作ってはどうかと思います。文書だけでなく、声に出して聞きたいと思いました。
事務局	授業時間を利用して講演会を行っているので、学校と話し合っ決めて決めることになります。委員から意見があったことを伝えます。
委員	学校との打ち合わせのときにできるかどうか聞いてください。
委員	私も大賛成であるが、生徒からこういった感想があったということ、学校はPTAと話し合う場を作らなければいけないが、学校は絶対作らない。
会長	私も学校の役員をしてきたが、PTAは集まりません。
委員	親の前で子どもと対話をさせるのですか。
委員	そうです。
委員	それは難しいと思います。子どもは親の前では本音トークはしたがない。
委員	デートDVについて、親子で向き合っ話ができるという状況は望ましいが、なかなかできないと思います。特に性の問題について親子が心を開くことは難しい。 ある学校で子どものキャリア（仕事や生き方）について2時間くらいの講座をしました。3校のうち1校の担当の先生が、支援員と一緒に、学校に仕事に関する本が何冊あるか調べて出してくれた。それを前もって「今度、キャリアに関する学習があり、その手掛かりになる本だから、1時間使っ見てごらん。時間が足りなければ休み時間を使うといい。」と言っ生徒に投げかけたそう、当日、生徒たちは仕事に関するいろいろな興味・関心を持っいた。私たちはカードを使っ、この仕事に興味がある、これはしたくない、これは少ししてみたいという学習をした。持っいた書籍を30冊くらい並べると、休憩の時間や講座が終った時間で、関心のある本を見ていた。先生が、調べるには書籍が大きな手がかりになると生徒にインプットしてたから、書籍やネット、カードでいろいろなことを学習するようになっていく。でも、保護者と子どもたちが向き合っ話ができるかというとなかなか難しい。「親は、自分のやりたいことに反対する」、と言う子どもたちは結構多い。親を説得できるだけの力はまだないと言っ。グループで友達と話をし、私たちサポーターの話を聞いて、

	先生と話して自分の力をつけていく。半月ほどたつが、仕事についての話が生徒の中で絶えていません、という連絡が入ってきます。外部は、入る前、当日、後と、先生や生徒との関わりが大事だと思う。ある意味の親代わりも必要だと思います。
委員	おっしゃる通りです。親は教育に関心があるようでない。対話をあまり持たない。親の対話の在り方を学校が訓練しないと、親が成長しない。学校は討論の仕方などを子どもに教えており、子どもはどんどん成長している。
委員	私たちの活動の一つとして、親たちの世代にデートDVについて学習する時間を設けたり、子どもがどんな仕事に興味・関心を持っているか、働くということについてどうかということをお話することは、意味があることだと思います。
委員	面白いと思います。
委員	小さな学習会が開けたらと思います。
委員	年代的に断裂があるのかな。私たちは厳しい時代に育ったが、ゆとり教育の時代とは層が違うのかもしれないな。
委員	親子が話すということは大事なことで、学校という場を借りないで、家庭で話せるとよいが、親にゆとりがない。自分も働きながら子育てしたから反省点はたくさんある。もっと話し合っていたらよかったと思うことがあるから、働いているからということだけでなく、親の気持ちにゆとりがなかったと思う。男女共同参画のなかのワーク・ライフ・バランスが日本の場合極端に悪く、欧米は親子の話をすごくしているように感じるの、日本との労働時間の違い、仕事と家庭が半々であるからだと思います。家庭教育の面で見ると日本の働き方はおかしいし、男女のいろいろな問題、家庭不和や離婚問題を生む原因の1つになっていると思う。女性活躍と言っている国がそういう取組をしてくれるのかなと思っているのに、武川さんの話も統計だけで終わったのは残念でした。
委員	多くの日本の子どもは、欧米と違い、大人と違うものとして、自立心がない、人格がない、権利はない、子どものくせに何をいっているのだという育てられ方をしているように映画などを見ると思ってしまう。もっと違う育て方があったら違ってくるのではと思うが、みなさんどうでしょうか。
委員	ヨーロッパに旅行に行き、現地の人たちと片言の言葉で話すが、身振り手振りのようなコミュニケーションでも通じ、いろいろな社会的なことや政治的なことも不思議と話せます。向こうの方が驚くのは、日本の労働時間の長さや休みが短いこと。私は働きながら2週間休みを取ってヨーロッパに旅行したが、職場では大ひんしゅくであった。旅先で出会った外国の人たちはみんな働いている人であったが、1ヵ月や1ヵ月半の長期休暇で来ていて、2週間でイタリア中を回ると言うとても驚き、先進国で豊かな日本がそんな国だと思わなかったと言われた。国内にいと気づきにくいし、仕方ないと思ってしまうことも多いと思いますが、自分たちの人生を謳歌している外国人の生き方を見ると、日本もそうなればよいと思ってしまう。
会長	時間もきましたので、事務局、最後に一言お願いします。

事務局	<挨拶>
会長	それでは本日の協議会はこれで終了いたします。皆様ありがとうございました。 <閉会 15 : 30 >